たしざん・かけざんだけでまなぶりょーしりき がく

低音

September 29, 2024

自己紹介

このセミナーで登場しないもの

- ■実験事実
- ■波動関数
- シュレディンガー方程式
- ■微積分
- ■三角関数

なぜ「物理」をやらないのか?

1 現象が直観とかけ離れている

- 状態の重ね合わせ?
- 測定したら状態が変わる?
- 位置と速度が同時に決まらない?
- 量子もつれ?

2 学部1年の線形代数だけで理解できる

- 複素ベクトル
- エルミート行列
- ユニタリ行列

計算できるようになると、なぜか感覚を掴めてくる

- 1 べくとるとぎょーれつ
- 2 こゆーほーてーしき
- 3 ひょーげんろん
- 4 ぶんるいもんだい

ベクトル

ベクトルは数がいっぱい並んだもの。4つ数が並ぶと4次元。 量子力学のお約束に従って、ブラ・ケットで書くと、後々直感的 にわかりやすい。

$$|1,2,4,3\rangle = \begin{bmatrix} 1\\2\\4\\3 \end{bmatrix} = - \boxed{|1,2,4,3\rangle}$$

$$\langle 1,2,4,3|=egin{bmatrix} 1&2&4&3\end{bmatrix}=egin{bmatrix} \langle 1,2,4,3| \end{pmatrix}$$

量子力学ではベクトルは状態を表すので、<mark>状態ベクトル</mark>と呼ぶことにする。

状態ベクトルの足し算

同じ次元のブラ同士、ケット同士なら単純に足すだけ。

$$\begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 4 \\ 3 \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} 5 \\ 3 \\ 1 \\ 4 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 6 \\ 5 \\ 5 \\ 7 \end{bmatrix}$$

次元が違うもの、ブラとケットは足せない。 足し算の延長でスカラー倍もそのまま。

$$3\begin{bmatrix}1\\2\\4\\3\end{bmatrix} = \begin{bmatrix}3\\6\\12\\9\end{bmatrix}$$

状態ベクトルどうしの掛け算 (内積)

$$\begin{bmatrix} 1 & 2 & 4 & 3 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 5 \\ 1 \\ -3 \\ 2 \end{bmatrix} = 1 \cdot 5 + 2 \cdot 1 + 4 \cdot (-3) + 3 \cdot 2$$
$$= 1$$

具体的な計算をしないなら、お絵描きしたほうがわかりやすい。

$$\boxed{\langle 1, 2, 4, 3 | \boxed{|5, 1, -3, 2\rangle} = 1}$$

脚が出てないので状態ベクトルじゃない。

一方その頃量子力学では

量子力学では、すべての情報はベクトルが持っている. 状態ベクトル=状態。

prop. 1: 測定により $|\psi angle$ が測定される確率

$$P_{\psi} \propto \langle \psi | \psi \rangle = \left[\langle \psi | - | \psi \rangle \right]$$

状態って???

→詳しい話はこの後

行列の状態ベクトルへの作用

$$\begin{bmatrix} \mathbf{1} & 2 \\ -1 & 4 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 \\ -2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \mathbf{1} \cdot 1 + 2 \cdot (-2) \\ -1 \cdot 1 + 4 \cdot (-2) \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} -3 \\ -9 \end{bmatrix}$$

こういうのを

$$\begin{split} \hat{H} \left| \psi \right\rangle &= \left| H \psi \right\rangle \\ - \left[\hat{H} \right] - \left[\left| \psi \right\rangle \right] &= - \left[\left| H \psi \right\rangle \right] \end{split}$$

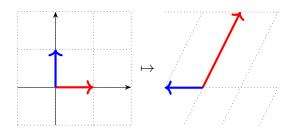
みたいに書く。 \hat{H} は状態ベクトルを状態ベクトルにするので脚が 2 本。

$$\hat{H} = -\hat{H}$$

矢印で理解するなら

$$\begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix} : \begin{pmatrix} \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix} \end{pmatrix} \mapsto \begin{pmatrix} \begin{bmatrix} a \\ c \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} b \\ d \end{bmatrix} \end{pmatrix}$$

ベクトルを回転・伸縮



行列積

$$\begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix} \begin{bmatrix} e & f \\ g & h \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \alpha \\ \beta \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix} \begin{bmatrix} e\alpha + f\beta \\ g\alpha + h\beta \end{bmatrix}$$

$$= \begin{bmatrix} a(e\alpha + f\beta) + b(g\alpha + h\beta) \\ c(e\alpha + f\beta) + d(g\alpha + h\beta) \end{bmatrix}$$

$$= \begin{bmatrix} (ae + bg)\alpha + (af + bh)\beta \\ (ce + dg)\alpha + (cf + dh)\beta \end{bmatrix}$$

$$= \begin{bmatrix} ae + bg & af + bh \\ ce + dg & cf + dh \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \alpha \\ \beta \end{bmatrix}$$

$$\begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix} \begin{bmatrix} e & f \\ g & h \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} ae + bg & af + bh \\ ce + dg & cf + dh \end{bmatrix}$$

$$- \begin{bmatrix} \hat{A} \\ - \hat{B} \end{bmatrix} = - \begin{bmatrix} \hat{AB} \\ - \end{bmatrix}$$

行列積

$$\begin{bmatrix} A_{11} & A_{12} & \cdots & A_{1N} \\ A_{21} & A_{22} & \cdots & A_{2N} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ A_{N1} & A_{N2} & \cdots & A_{NN} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} B_{11} & B_{12} & \cdots & B_{1N} \\ B_{21} & B_{22} & \cdots & B_{2N} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ B_{N1} & B_{N2} & \cdots & B_{NN} \end{bmatrix}$$

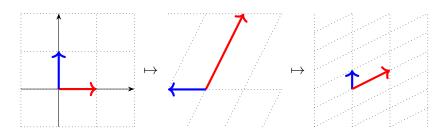
$$= \begin{bmatrix} A_{11}B_{11} + \cdots + A_{1N}B_{N1} & \cdots & A_{11}B_{1N} + \cdots + A_{1N}B_{NN} \\ A_{21}B_{11} + \cdots + A_{2N}B_{N1} & \cdots & A_{21}B_{1N} + \cdots + A_{2N}B_{NN} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ A_{N1}B_{11} + \cdots + A_{NN}B_{N1} & \cdots & A_{N1}B_{1N} + \cdots + A_{NN}B_{NN} \end{bmatrix}$$

$$(AB)_{ij} = A_{i1}B_{1j} + \cdots + A_{iN}B_{Nj}$$

むずそうなことやってるけど、結局は足し算と掛け算がいっぱい あるだけ。

矢印で理解するなら

2回の回転・伸縮を合成



一方その頃量子力学では

状態を変換すると別の状態になる

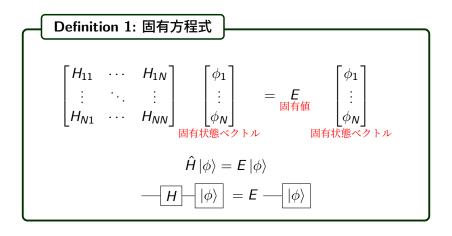
- ■回転する
- ズラす
- 交換する

状態ベクトルを状態ベクトルに移すので、行列による作用で表 せる

$$--[\psi\rangle] \; \mapsto \; --[\hat{\mathcal{U}}] - [\psi\rangle]$$

- 1 べくとるとぎょーれつ
- 2 こゆーほーてーしき
- 3 ひょーげんろん
- 4 ぶんるいもんだい

わかる人には一発でわからせる固有方程式



固有方程式 定義のポイント

- 両辺の固有状態ベクトル |φ⟩ は同じ
- 固有値 E はただの実数

Hを決めると $(E,|\phi\rangle)$ の組が (一般には複数個) 出現

$$\hat{H} = \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{bmatrix} \Longrightarrow (E, |\phi\rangle) = \left(1, \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}\right), \left(-1, \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix}\right)$$

$$\hat{H} = \begin{bmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{bmatrix} \Longrightarrow (E, |\phi\rangle) = \left(1, \begin{bmatrix} 1/\sqrt{2} \\ 1/\sqrt{2} \end{bmatrix}\right), \left(1, \begin{bmatrix} 1/\sqrt{2} \\ -1/\sqrt{2} \end{bmatrix}\right)$$

手を動かせ

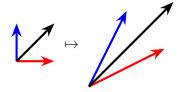
e.g. 1: 2 × 2 でやってみよう!

$$\begin{bmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \cdot 1 + 1 \cdot 1 \\ 1 \cdot 1 + 0 \cdot 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix}$$
$$\begin{bmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \cdot 1 + 1 \cdot (-1) \\ 1 \cdot 1 + 0 \cdot (-1) \end{bmatrix} = -\begin{bmatrix} 1 \\ -1 \end{bmatrix}$$

一般に行列 \hat{H} から固有値 E と固有状態ベクトル $|\phi\rangle$ を見つけるのは至難の業 (原理的にはできるが計算が膨大)。

矢印で理解するなら

 $\hat{H}\ket{\phi}=E\ket{\phi}$ 方向が変わらないベクトルが固有ベクトル。



これから考える理論体系が満たすべきもの

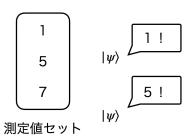
- 1 「物理量」が一般には複数だが限定された「測定値」を持つ
- 2 どんな「物理量」にも**「測定値」がただ一つしか生じない**状態ベクトルが存在する
- 3 任意の状態ベクトルは「測定値」がただ一つしか生じない状態ベクトルたちの**線型結合**で書ける
- 4 ある状態ベクトルの「測定値」が出る確率は、その「測定値」がただ一つしか生じない要請2の状態ベクトルと元の状態ベクトルだけで計算できる

何を言ってるかわからないと思うので説明します。

要請

「物理量」が一般には複数だが限定された「測定値」を持つ

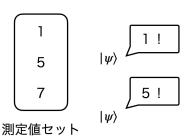
ある状態ベクトルに「測定」を施すと、「測定値」セットのうちどれかが出てくる。



要請

どんな「物理量」にも**「測定値」がただ一つしか生じない**状態ベクトルが存在する

何回「測定」を繰り返しても「測定値セット」のうちの1つだけ しか出てこない。



要請

ある状態ベクトルの「測定値」が出る確率は、その「測定値」が ただ一つしか生じない要請 2 の状態ベクトルと元の状態ベクトル だけで計算できる。

状態ベクトル $|\psi\rangle$ で「物理量」 \hat{A} を測定して「測定値」 \hat{a} が出る確率

 $\longleftarrow |\psi\rangle$ & 「物理量」 \hat{A} を「測定」すると常に a しか出ない状態ベクトル $|a\rangle$

期待値ってなに?

$$\langle \psi | \hat{H} | \psi \rangle = \boxed{\langle \psi |} \boxed{\hat{H}} \boxed{|\psi\rangle}$$

期待値に見える?

→ 固有状態ベクトルに直せばわかる!

固有方程式で見る期待値

 \hat{H} の固有値 E_1, E_2, \ldots の固有ベクトル $|E_1\rangle, |E_2\rangle, \ldots$ により

$$--[|\psi\rangle] = c_1 - -[|E_1\rangle] + c_2 - -[|E_2\rangle] + \cdots$$

と展開すると、

- 1 べくとるとぎょーれつ
- 2 こゆーほーてーしき
- 3 ひょーげんろん
- 4 ぶんるいもんだい

- 1 べくとるとぎょーれつ
- 2 こゆーほーてーしき
- 3 ひょーげんろん
- 4 ぶんるいもんだい